

白川村の蔵開業前に説明会

白川村鳩谷の旧白川小学校跡地で整備が進み、2027年4月の開業を目指す酒蔵「白川村の蔵」の現地説明会が13日にあった。運営する渡辺酒造店(飛騨市)が主催し、地域住民ら約50人が酒米の栽培地や工事中の建物を見学。目標の栽培面積の2割にとどまる酒米「山田錦」の栽培を地元農家に広げようとアピールした。

(村瀬美空)

20年に村が誘致した「白」した酒米「山田錦」を使用
川村の蔵」は、村内で栽培 することで農家の経営を安



⑤建設中の「白川村の蔵」を見学する参加者＝白川村鳩谷で
⑥合掌造り集落内で山田錦を栽培する田んぼを前に説明を受ける参加者ら＝白川村荻町で



定させ、伝統的な農村風景の保全を目指している。

村内では同年に0・15畝で山田錦の試験栽培を開始。現在では合掌造り集落内など約2畝で同村の農業法人サンフラワーが栽培し、34年までに10畝への拡大を目指す。渡辺酒造店は村内産の山田錦を全量、日本一の価格で買い取るとしている。

この日は、荻町の合掌造り集落内で山田錦を栽培する田んぼで、サンフラワーの堅田瑞穂社長が解説。山

住民らに酒米「山田錦」栽培アピール

田錦の最大の生産地は西日本温暖な地域だが、堅田社長は「白川村の気候にも適しているのでは。少しでも多くの方に作っていただければ」と呼びかけた。村産業課の高島一成課長は「『三方よし』どころか、農家、酒蔵、販売店、買い手、村の未来と『五方よし』の事業」と力を込めた。

飛騨市農業技術専門室の室長で「白川村美味しい米づくり研究会」のアドバイザーを務める鍵谷俊樹さんの講演もあり、村での山田錦栽培に期待を示した。同村で食用米を育てる山田雅彦さん(50)は「多くの可能性を感じた。迷っていたが、地元での事業の一翼になればそれ越したことはない」と、酒米栽培に前向きになっていた。

参加者らは昨年9月に着工した酒蔵も訪れ、酒造りを見学できるスペースやショップを設けられると説明を受けた。同村で民宿を営む富安ゆかりさん(67)は「ここで作られるのがどんな酒になるのか気になる。村の酒としてお客さんに紹介できるし、白川の活性化につながってほしい」と期待を寄せた。